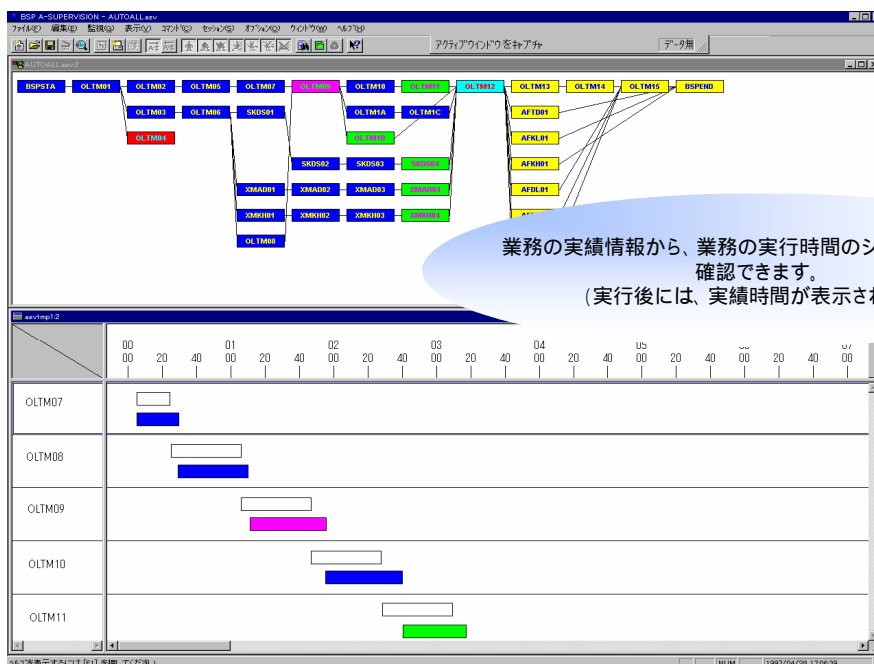


## スケジュール通りに実行される



### 自動化前の業務実行処理

オペレータは、ワープロされた処理フローをチェック（正常終了、異常終了の確認）しながら、次々にJOBを起動していきます。又、各JOBの確認は、各JOBの起動前の確認、起動中の指定MTセット、指定帳票への出力、処理後の確認等が書かれた指示書をもとに行います。

この様にオペレータの注意力のみに依存した処理形態が中心でした。

この場合どのように優れたオペレータでも、一つのJOBが終了し次のJOBを起動するのに平均約1分の時間が必要でした。

また、毎日この処理フロー及び指示書を作成するのに、少なくとも2～3時間の時間が必要でした。

### A-AUTO（自動）化後の業務実行処理

弊社A-AUTOに、JOB（ネット）の処理順番とスケジュール基準を登録します。日別にスケジュールされたJOB（ネット）の実行は、A-AUTOが正常終了した場合だけ次のJOB（ネット）を次々に起動して行きます。また、A-AUTO化の際にMT回りもプライベートの世代管理化を行えば、コンソールに何番のMTをセットすれば良いか表示され、帳票も弊社の**A-SPOOL**化をすれば、どの用紙をセットするか、やはりコンソールに表示されます。つまりオペレータは、指示書なしで作業を行うことができます。もちろん、指示書の作成時間も必要なくなります。

### A-SUPERVISIONによる処理の監視と制御

上のフロー表示は、弊社A-SUPERVISIONを使用したネットの処理表示です。実際には、正常終了したネットは青、異常終了は赤、実行中は緑、未実行は黄等色分けをして表示することが可能です。

## 実行の監視 (異常と処理遅れの監視)

当日業務はフローチャートで表示できます。  
(業務をグルーピング可能です)

Idx.	業務名	業務コード	スケジュール日	モニタID	ステータス
19	DB DAILY PROCESS/11	OLTM11	1996/01/01	AUTO61	未
20	DB DAILY PROCESS/12	OLTM12	1996/01/01	AUTO61	未
21	DB DAILY PROCESS/13	OLTM13	1996/01/01	AUTO61	未
22	DB DAILY PROCESS/14	OLTM14	1996/01/01	AUTO61	未
23	DB DAILY PROCESS/15	OLTM15	1996/01/01	AUTO61	未
24	COMPARE DB PROCESS	OLTM1A	1996/01/01	AUTO61	正常終了
25	OMIT THE RECORD A	OLTM1B	1996/01/01	AUTO61	実行中
26	LIST RESULT OF DB	OLTM1C	1996/01/01	AUTO61	正常終了
27	ISSUING INVOICE (1)	SKDS01	1996/01/01	AUTO61	正常終了
28	ISSUING INVOICE (2)	SKDS02	1996/01/01	AUTO61	正常終了
29	ISSUING INVOICE (3)	SKDS03	1996/01/01	AUTO61	正常終了
30	ISSUING INVOICE (4)	SKDS04	1996/01/01	AUTO61	実行中
31	SALES CONTRACT (1)	XMAD01	1996/01/01	AUTO61	正常終了
32	SALES CONTRACT (2)	XMAD02	1996/01/01	AUTO61	正常終了
33	SALES CONTRACT (3)	XMAD03	1996/01/01	AUTO61	正常終了
34	SALES CONTRACT (4)	XMAD04	1996/01/01	AUTO61	実行中
35	SENDING DM (1)	XMKH01	1996/01/01	AUTO61	正常終了
36	SENDING DM (2)	XMKH02	1996/01/01	AUTO61	正常終了
37	SENDING DM (3)	XMKH03	1996/01/01	AUTO61	正常終了
38	SENDING DM (4)	XMKH04	1996/01/01	AUTO61	実行中

アラート

以下の業務が異常終了しました。

スケジュール日: 1996/03/06

業務コード: AUT903

モニタID: AUTO00

ステータス: 異常終了

OK 業務詳細情報(I)...

### 自動化前の業務実行監視

まずオペレータは、実行中のJOBがコンソールよりなくなる（終了する）のをコンソールコマンド、コンソールログより確認します。次に終了確認後該当JOBのジョブログを表示もしくは、プリントし各ステップが全て指示書に書かれたコンディションコード以内で終了しているか確認し正常異常の判断をしていました。より細かい場合は、出力されたリストにエラーリストがないかどうかでもチェックしていました。この様な監視方法では、コンソールに一人専属でJOB実行監視要員が必要でした。

### A-AUTO (自動) 化後の業務実行監視

弊社A-AUTOにより実行されたJOB（ネット）は、OS上の異常終了もしくは、指定されたコンディションコード以上になった場合に異常と判断し、該当JOBの後続のみ処理を中断します。また、A-AUTOジョブエンド出口を設定すれば異常の場合のみ高輝度でコンソール上に表示できます。この場合オペレータは、高輝度（異常終了）のみを監視すれば良くなり、専属のJOB監視員は必要なくなります。また、弊社A-QUARITYがあれば、A-SPOOL等と組み合わせエラーリストの内容確認後正常異常の判断と後続の起動制御が行えます。

### A-SUPERVISIONによる処理の監視と制御

上のフロー表示は、弊社A-SUPERVISIONを使用したネットの異常時の表示です。この表示は、他のWINDOWで作業中でも割り込んで表示されます。また実際には、PCの機能として音声を発生させることも可能です。この様に常にA-SUPERVISIONの画面を表示していなくても異常の監視は行えます。つまり、オペレータは、他の業務との並行作業が可能となります。

## 正常終了と異常終了と再処理

フローチャート表示の中で異常終了したジョブの  
ジョブログが確認できます。

```
14.01.06 STC00233 $HASP373 NAGA - STARTED
14.01.06 STC00233 IEF403I NAGA - STARTED - TIME=14.01.06
14.01.07 STC00233 +APL001I APLINK INITIALIZING
(97)
14.01.11 STC00233 +APL002I APLINK 97 START
(97)
14.01.42 STC00233 +APL350I INPUT COMMAND ACCEPT (P,D,SESS)
(97)
14.01.43 STC00233 +APL204I APLINK1.4.9 / LV00 SESSION INFORMATION
(97)
14.01.43 STC00233 +APL208I ID:00 / LABEL:APLINK97 / STATUS:CONNECT (
40)
(97)
14.01.43 STC00233 +APL208I ID:01 / LABEL:CONSOLE / STATUS:CONNECT (
80)
(97)
14.01.43 STC00233 +APL208I ID:02 / LABEL:NAGAGII / STATUS:DISCONNECT(
80)
(97)
14.01.43 STC00233 +APL208I ID:03 / LABEL:APLKPC / STATUS:DISCONNECT(
80)
(97)
-----
14.01.43 STC00233 +APL208I ID:04 / LABEL:N / STATUS:DISCONNECT(
80)
(97)
14.02.07 STC00233 +APL350I INPUT COMMAND ACCEPT (P,N,CONN,LB=N)
(97)
14.02.07 STC00233 +APL209I REQUEST CONNECTION TO LABEL N
(97)
14.02.08 STC00233 +APL250I REQUEST CONNECT SUCCESSFUL LABEL = N
(97)
14.04.21 STC00233 +APL254I ACCEPT SHUT SUCCESSFUL LABEL = N
(97)
```

### 正常終了と異常終了

正常終了とは、ジョブの全てのステップが、コンディションコード = 0（富士通XSPのお客様は、10）で終わったことを指します。しかし、実際の運用上は、次の異常終了と判断されないもの全てが正常終了となります。

異常終了には、次のものが含まれA-AUTOで監視可能です。（OS上のシステムアベンド、JCLの構文エラー、JOB実行時の内容ミス（JOB FAILED）、ステップが指定コンディションコード以上のコードとなった場合）。

処理は正常終了だが、出力されたリストで指定値以上（以下）が表示されている場合の監視、判断、制御は、A-QUANTITYで可能です。

### リラン

異常終了したJOBをもう一度処理し直すことです。リランの前にジョブログ（実行されたJCLの内容や、実行時のメッセージ、各ステップのコンディションコード等の詳細）を弊社A-LOG画面で確認しジョブの構成を変更するか、ジョブの先頭から処理をするのかを判断します。

### アベンド

ABEND（ABNORMAL END）のことで、JOBが異常終了したことを表します。

これと同義語で運用担当者は、「JOBが、死んだ。」「JOBが、落ちこちた。」等と表現する場合があります。

### A-SUPERVISIONによる異常の調査とリラン

上の表示は、弊社A-SUPERVISIONを使用したジョブログの確認表示画面（弊社A-LOGも必要）です。この表示は、WINDOWで表示されます。ここで内容確認後A-SUPERVISIONから、リランの指示が可能です。